

南ア月報

(2016年12月)

在南アフリカ日本国大使館

主な出来事

【内政】

- ラマポーザ副大統領の2017年ANC総裁選出馬意向表明

【外交】

- ザンビア大統領の南ア国賓訪問
- ズマ大統領と李源朝中国国家副主席の会談

【経済】

- 経済成長
- インフレ
- 貿易収支
- 製造業・鉱業生産高
- 自動車販売台数
- 景況感
- 南ア電力公社 Eskom への政府保証枠の延長
- 格付け
- 投資

1 内政

●ラマポーザ副大統領の2017年ANC総裁選出馬意向表明

5日、ラマポーザ副大統領は、マンデラ財団で演説し、アルバート・ルトゥリ、オリバー・タンボ及びネルソン・マンデラの偉業に言及した後、「我々は、『今日南アにこのようなリーダーがいるのだろうか？』という不愉快な質問をし直さなければならない。我々の運動にそのようなリーダーがいるだろうか？我々は、マンデラ、タンボ、シスル及びルトゥリが造った模範に恥じない行動を取っているだろうか？最も重要なのは、我々が人々の期待を満たしているかどうかである。結束し、信頼を置くことができ、正直で人の意見を聞き、人々を鼓舞するようなリーダー達がいなければ、運動をまとめることもできなければ、国民を結束させることもできない」と述べた。

13日、ラマポーザ副大統領は民間ラジオ局のインタビューに答え、「人々が望むのであればANC総裁選に出馬し、党を率いていく用意がある、仮にそのような重要な職に選出されれば謙虚に受け止めねばならない、まずはANC支部を回って支持者の意見を聞いてみたい」と発言した。

2 外交

●ザンビア大統領の南ア国賓訪問

ザンビアのルング大統領は、12月8日から9日まで南アを国賓訪問したところ、共同声明及び共同記者会見におけるズマ大統領の発言の内、要点は以下のとおり。

(1) 共同声明

両首脳は、AUC委員長選挙において、SADCが推薦するモイトイ (Dr. Pelonomi Venson-MOITOI) ポツワナ現外務大臣を支持することを再確認した。

両首脳は、特にブレトンウッズ機関と国連安保理が途上国の利益を反映するように改革されるべきだという共通の認識を再確認した。

(2) 共同記者会見におけるズマ大統領の発言

我々両政府は、貿易と投資、科学と技術、農業、防衛、エネルギー及び文化における協力を強化することにコミットした。我々は、南ア及びザンビアの企業が両国間の素晴らしい歴史的及び政治的な紐帯を最大限活用し、経済活動を増加させることを積極的に後押しすることにコミットする。

ツワネ (プレトリア) のフリーダムパークにおいて、南アフリカ・ザンビア・フォーラムが行われている。これは既存の協力関係を強化し、新しい成長の分野を開拓しようとするイニシアティブである。

●ズマ大統領と李源朝中国国家副主席の会談

12月6日、ズマ大統領は南アを訪問中の李源朝中国国家副主席と会談した。両者は、Coega 産業開発特区への中国の投資を含む二国間関係に関して話し合った。李副主席は2015年に開催されたFOCAC (中国・アフリカ協力フォーラム) の結果を踏まえ、中国には南アとの関係を深化させる意向があると述べた。

3 経済

<経済指標>

●経済成長

南ア統計局は、第3四半期のGDP成長率は0.2% (第2四半期は季節調整後3.5%) と述べた。市場は、第3四半期のGDP成長率が予想の0.5%を下回る結果となり、失望し株価指標は一様に下落。一方で、ランドの対ドル為替レートは予想に反して1ドル13.73ランドから13.64ランドにやや上昇した。

●インフレ

南ア統計局は11月のインフレは6.6%と発表した。引き続き、食料価格とガソリン価格の高騰が主な要因であると述べた。南ア準備銀行のインフレ見通しは2016年平均は6.4%、2017年は5.8%、2018年は5.5%。

●貿易収支

南ア歳入庁 (SARS) は、2016年10月の貿易収支は9月の69億ランドの黒字から44.1億ランドの赤字に転じたが、輸出が予想を上回ったため、減少額は予想を下回ったと述べた。輸出は前月比で11.1%減、輸入は0.4%の微増。

●製造業・鉱業生産高

南ア統計局は、10月の製造業生産高は前年比2.7%減と述べた。主な要因は、飲料

品が前年比7.3%減、輸送機器が9.9%減、石油製品が1.7%減。鉱業生産高は前年比2.9%減。

●自動車販売台数

11月の新車販売台数は、28,334台と前年比13.8%減、市場全体で46,413台と前年比9.6%減。トラックやバス市場が最も伸び悩んだ。11月の中型トラックは前年比18.7%減、大型トラックは20%減、バスは53.8%減となった。一方で、輸出は31,508台で前年比12.1%増と伸びた。当会計年度から11月までの輸出は、326,169台と3.1%増。

●景況感

南ア商工会議所は、11月の景況感は93.9ポイントと過去4ヶ月で最も高くなったと述べた。主な要因は新車販売台数と製造業生産高の改善。

<出来事>

●南ア電力公社 Eskom への政府保証枠の延長

ファジル財務次官は、2017年までの期限付きで Eskom に供与している3500億ランドの政府保証枠をメデュピ石炭火力発電所、クシレ石炭火力発電所、イングラ揚水発電所が建設完了予定の2023年頃まで延長すると発表した。スタンダード・プアーズ (S&P) は政府保証枠の延長が未定であること等を理由に信用格付けをBB+からBBに格下げしたばかりだった。一方で、ファジル財務次官は、「3500億ランドは原子力に与えられたものではない」と述べ、既存の政府保証枠が原発建設に適用される可能性を否定した。

●格付け

S&P は長期ランド建信用格付けをBBB+からBBBに引き下げる一方で、投資適格ギリギリの長期外貨建信用格付けを含む他の格付けを据置くと発表した。見通しも「ネガティブ」に据置き。Fitch 及び Moody's も投資適格の信用格付けを維持。南アはひとまず投資不適格への格下げは免れた。今回、S&P が長期ランド建信用格付けを引き下げたのは、南アが財政・経常収支赤字の大半をランド建て債券でファイナンスしていること、予想より多い財政収支の悪化、不安定な内政が改革を遅らせて低成長に繋がり、それが累積債務増大に繋がっていることを踏まえたからである。見通しを「ネガティブ」に据え置いたのは経済の低成長が財政バランスシートに悪影響を及ぼす可能性があるためである。

●投資

南アへの外国直接投資は、一年を通して減少したものの、南ア企業による対外投資はオフショアで増加した。先の2四半期はネットベースで小規模の直接投資の流入があり、これは過去2年間で起こった企業の国際化による大規模な純流出からの転換である。投資収支は第2四半期の1.3%から第3四半期は3.5%に上昇した。特に債券市場への資金流入、外国からの銀行預金が引き続き堅調である。南ア準備銀行は、これらの資金流入は経常収支赤字を十分に上回っていると述べた。

4 広報・文化

●日本語能力試験 (JLPT) の実施

4日、ヨハネスブルグ日本人学校において、日本語能力試験 (JLPT) が実施された。南アでの同試験実施は、今回が3回目となる。JLPTは、国際交流基金と日本国際教育

支援協会が主催する、原則、日本語を母語としない人を対象として、日本語能力を測定・認定することを目的とした試験であり、日本国内を含め、世界68か国、219都市（2015年実績）で実施されている。南アでは、2014年から実施されており、応募者数も初回の44名から、今年は62名に増加するなど、南アでの認知度も徐々に広まりつつある。

5 警備

●南ア在留邦人に係る犯罪被害例について（2016年）

2016年1月から同年12月までに、当館に寄せられた在留邦人（旅行者含む）に係る犯罪被害件数は25件であった。これを罪種／手口別に見ると、強盗／路上強盗（6件）が最も多く、次いで窃盗／車上ねらい（5件）、窃盗／置引き（4件）の順に多い。南アの犯罪統計上、近年最も急増している犯罪手口の一つであるカージャックの被害事例（2件）も発生しており、犯行にけん銃が使用され重傷を負ったケースが含まれている。さらに、路上強盗の多くが複数による犯行であり、ナイフ、けん銃等を使用したいわゆる持凶器事案に加え、首締めなどによる凶悪かつ卑劣な手口による犯行が横行しており、南ア国内の治安は依然として劣悪な状況にあると言える。

この1年間に当館に寄せられた邦人被害（2016年）の詳細については、以下のとおり。

【強盗】

- 路上強盗6件（うち、凶器使用による事案3件）
- カージャック2件（うち、けん銃使用1件）

【窃盗】

- 車上ねらい5件
- 置引き4件
- 侵入盗2件
- スリ1件
- スキミング1件
- ATMねらい（取引時の声掛けによりカードをすり替えるなどして現金を窃取する犯行）1件
- スマッシュ・アンド・グラブ（信号待ちなどで停車中の車両をターゲットにして窓ガラスを破壊し、車内の金品類を強奪する犯行）1件

【その他】

- 悪質警察官による不正取締り2件

（了）